

## 回帰分析の基礎 4

crimsonbach

2004 年 9 月 25 日

行列を使って、回帰モデルを記述しなおしてみよう。重回帰モデル

$$Y_i = \beta_1 + \beta_2 X_{2i} + \cdots + \beta_k X_{ki} + u_i, \quad i = 1, \cdots, n. \quad (1)$$

において以下のような行列を利用する。

$$y = \begin{bmatrix} Y_1 \\ \vdots \\ Y_n \end{bmatrix}, \quad X = \begin{bmatrix} x'_1 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & X_{21} & X_{31} & \cdots & X_{k1} \\ 1 & X_{22} & X_{32} & \cdots & X_{k2} \\ 1 & X_{23} & X_{33} & \cdots & X_{k3} \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & X_{2n} & X_{3n} & \cdots & X_{kn} \end{bmatrix}, \quad \beta = \begin{bmatrix} \beta_1 \\ \vdots \\ \beta_k \end{bmatrix}, \quad u = \begin{bmatrix} u_1 \\ \vdots \\ u_n \end{bmatrix}.$$

これらより (1) 式は

$$y = X\beta + u. \quad (2)$$

と、より簡潔になった。ここで  $x'_n$  は  $x_n$  の転置ベクトルである。

次に誤差項についてだが、 $uu'$  ( $n \times n$ ) の行列の要素を  $u_i u_j$  とする。行列の期待値は

$$E(uu') = \begin{bmatrix} E(u_1^2) & E(u_1 u_2) & \cdots & E(u_1 u_n) \\ E(u_2 u_1) & E(u_2^2) & \cdots & E(u_2 u_n) \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ E(u_n u_1) & E(u_n u_2) & \cdots & E(u_n^2) \end{bmatrix}. \quad (3)$$

分散  $V(u_i) = E(u_i^2)$  および共分散  $Cov(u_i, u_j) = E(u_i u_j)$  より (3) 式を  $u$  の分散共分散行列 (variance covariance matrix) という。これまでのように、各誤差項に系列相関がないこと、および均一分散の仮定をおくと分散共分散行列は

$$V(u) = \begin{bmatrix} \sigma^2 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & \sigma^2 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & \sigma^2 \end{bmatrix}. \quad (4)$$

ここで  $I_n$  は ( $n \times n$ ) の単位行列である。

因みに、( $n \times n$ ) の正方行列  $A$  の主対角成分  $a_{ii}$  の和をトレース (trace) といい、

$$tr(A) = \sum_{i=1}^n a_{ii}. \quad (5)$$

と表現する。